

繊維系三学会合併に関する協議会（第4回）議事録

【日時】2024年7月7日（日）13:00～16:45

【方法】ハイブリッド開催

会 場：大阪科学技術センター6階602号室（大阪市西区靱本町1-8-4）

オンライン：Teams

【出席】（敬称略）

繊維学会

会長：辻井敬亘、副会長：濱田仁美、増田正人、村瀬浩貴、事務局長：山本恵美

日本繊維製品消費科学会

会長：大矢 勝、副会長：榎本雅穂、森下あおい、（欠席：小田直規）、事務局長：西 良造、事務局：
山田 勲（記）

日本繊維機械学会

会長：田上秀一、副会長：金井博幸、倉敷哲生、西脇剛史、事務局長：高平恭護

【内容】司会：田上秀一（日本繊維機械学会）

1. 会長・副会長の確認について

- ・繊維学会ならびに日本繊維機械学会では、総会において役員改選が行われ、会長と副会長の交代があった。
- ・参加委員による自己紹介が行われた。

	繊維学会	日本繊維製品消費科学会	日本繊維機械学会
会 長	辻井 敬亘（京都大学）	大矢 勝（横浜国立大学）	田上 秀一（福井大学）
副会長	濱田 仁美（東京家政大学）	榎本 雅穂（京都女子大学）	金井 博幸（信州大学）
副会長	増田 正人（東レ）	小田 直規（東レ）	倉敷 哲生（大阪大学）
副会長	村瀬 浩貴（共立女子大学）	森下あおい（滋賀県立大学）	西脇 剛史（アシックス）
事務局長	山本 恵美	西 良造	高平 恭護
事務局		山田 勲（書記担当）	

2. 各WGの進捗状況について

（1）事務局検討WG

- ・事務局検討WGでは、これまでに4月14日、5月19日、6月27日に会議を開催した。会議では、前回の事務局検討WGで決定した答申内容の確認を行い、検討すべき内容についてフリーディスカッションの形で意見交換を行った。現在のところ、以下の内容について議論を行っている。
 - ① 学会名：ビジョン・ミッションとセットで議論することが望ましい
 - ② 定款：前回の答申内容の確認と見直しを行い、必要に応じて提案
 - ③ 役員（理事・監事）体制：人数や人選方法
 - ④ 理事会・業務執行理事・運営組織：実際の運営組織
 - ⑤ 事務局：前回答申の二事務局体制の必要性、余力を作る方策
 - ⑥ 支部：役割、区割り
 - ⑦ 表彰制度：賞の統一
 - ⑧ 委員会組織：基幹委員会、研究会・研究委員会以外の組織
 - ⑨ 税理士法人：依頼内容、学会規模、それに伴う経費
- ・今後は、会議頻度を増やし議題毎に会議を行う予定である。

(2) 将来構想 WG

・将来構想 WG では、これまでに 4 月 22 日、5 月 28 日に会議を開催した。前回の内容をベースにしなが
ら、ビジョン・ミッション、アクションプランを整理し、三学会が合併することの長所、目的と目指
す姿を具体化しながら、まとめ方の方針について検討を行っている。

① 内容検討の視点に関して

- 各学会が有している学問分野から、新規の革新的な要素技術や代表的な研究トピックスなど
を確認し、新学会として捉えるべき内容を見通せるようにすること。
- 学会が目指す将来像を、短期・中期・長期で考え、何を優先的に行うべきかプランをたて、三
学会が合併して、そのプランをどう達成させるのかを具体的に示すこと。
- 合併により、川上、川中、川下と繋がることで他分野との融合により生まれる研究内容が最終
的に社会実装に到達する流れを示すこと。

② 組織の在り方に関して

- 三学会の合併により、専門分野の広がり生まれるが、それをどのように運営していくか、研
究を進めるための組織を具体的に整え、学会の現実的な運営のかたちを見えるようにするこ
と。
- 統合後に組織される各委員会、研究会の違い、WGが何を行うのか、各学会の組織が融合する
ことにより生まれる相乗効果を考慮し、各々の役割と内容の整理を行なうこと。
- 技術者、研究者が、実務への応用やビジネスとしても議論する場やしくみづくりを行い、魅力
があり、参加したいと思える新たな視点を備えること。
- 社会的に妥当な会則・規則・人事制度を有し、透明性が高く公正な学会であること。

③ 認知度の向上に関して

- 三学会の専門領域が融合して生まれる新しい研究知見、その普及促進や社会貢献等の価値を、
具体的かつ魅力的に伝える提案方法を検討すること。国内にとどまらず、国際化に向けたグ
ローバルな認知度を上げるためにも新学会のブランディングを進めること。

・これらをふまえて、今後は三学会合併を検討する各WGと連携し、新学会の将来構想として取り組むべ
き優先順位の確定やスケジュールの落とし込みを行う予定である。

・次回の WG 会議は、8 月 11 日に繊維学会事務局において対面形式で開催予定である。

(3) 学会誌検討 WG

・学会誌検討 WG では、これまでに 4 月 19 日、5 月 24 日に会議を開催した。

・実施事項

- ① 各学会誌の現状把握と前回 WG の最終答申の確認。
- ② 本 WG での検討事項とスケジュールについて議論し、整理をした。
- ③ 学会誌の観点から見た三学会合併のメリット、デメリットについて議論を実施した。メンバーから
の意見を整理した。内容については議論を継続中。
- ④ 合併の暫定的なスケジュールとして 2026 年 4 月より新学会発足とした場合の、新学会誌の発刊準
備について議論し、スケジュール案を作成した。企画検討から原稿執筆期間等を考慮すると、合併
決議 (2025 年 6 月予定) 後では間に合わない判断し、編集準備委員会を 2025 年 4 月に発足する
案とした。
- ⑤ 前回 WG 最終答申をベースにした検討内容を整理中。
- ⑥ 電子化について意見交換を行った。議論継続中。

⑦ 新学会誌出版に関する支出見積もりに必要な前提条件について議論開始。電子化の可否および事務局・外注の作業選定が必要。事務局 WG とも連携が必要。

・ 今後の予定

- ① 前回 WG の答申をベースにした議論の継続
- ② 学会誌としての合併メリット・デメリット整理
- ③ 電子化に関する議論
- ④ 支出見積もりのための前提整理

【意見交換】

- ・ 電子化を行った場合、年配の方より冊子配布の希望があるのではないかと。
→希望者だけに配ることもできるが、印刷の手間や費用面で現実的ではない。
- ・ 学生会員には冊子を配布していない学会もある。

(4) 論文誌検討 WG

- ・ 前回の答申は、英文誌に特化した JFST と新たに作る和文誌の 2 誌の体制とし、JFST は守備範囲を広げつつ IF を高めるよう努めることであった。
- ・ 第 1 回 WG 会合の結果 (2024 年 4 月 14 日)
前回問題となっていた三学会合併に伴う JFST の IF 消失に関する懸念についてほぼ問題がないことが確認された。繊維学会と日本繊維製品消費科学会からは以前の WG の最終案 (JFST と新和文誌) に対する修正意見は無いが、日本繊維機械学会からは JFST、JTE、それに日本繊維製品消費科学会の論文誌の 3 誌の体制を進めることが提案された (オンライン刊行であれば経費に問題がないとの説明)。論議の結果、繊維系 3 学会合併に関する協議会に状況を報告して判断を仰ぐこととなった。

・ 第 2 回 WG 会合の結果 (2024 年 6 月 16 日)

繊維系 3 学会合併に関する協議会より、日本繊維機械学会からの 3 誌案について、そのメリットを説明できる案を提示して WG の論議を進めるよう回答があったので、日本繊維機械学会から、長く続けてきた価値を残すために 3 学会体制が必要であるとの説明があった。他の 2 学会からは意図は理解できるが 3 学会合併の意義から 3 学会誌案は困難である等の意見があった。多数決に対する懸念もあったので、繊維系 3 学会合併に関する協議会に状況を報告して判断を仰ぐこととなった。

【意見交換】

- ・ 統合案を検討するにあたっては、各学会の活動の継続性、発展性はマストではあるが、新学会の在り方についても念頭に置きながら、色々なリソースを活かしながら一緒にならないと意味がない。不利益を被る方が出るのは大きな問題である。最大限不利益が出ないような形にできるような議論が必要である。2 誌になった場合、JTE の過去の蓄積が決してなくなるものではない。アーカイブへのアクセスを上手く設定することが大切である。現在は、AI 翻訳があり英文や和文を容易に翻訳することができ、サーキュレーションが高まる。
- ・ JTE の名前がなくなると投稿する人が減ると説明があったが、どのような真意なのか。
→真意は聞いていないが、JTE に投稿していた人が、投稿できなくなるという説明があった。
- ・ メリットを会員に見える形で会員に示す必要があり、効率化を図りつつも、分野の広がりを見える化することは重要である。相対的に分野は広がるが、1 誌にして分野が狭まったような印象となるのは望ましくない。国際的にみても Textile Research Journal を運営している出版社では、Clothing and Textiles Research Journal、Journal of Industrial Textiles の 3 誌を別の雑誌として研究分野ごとに刊行している事例があり、一つの参考になるとの意見があった。雑誌の名称を踏襲することとは別問題である。会員

ならびに投稿者側がクリアで違和感なく投稿できる状態を作りこむことが重要である。

- ・分野が広がり、サーキュレーションが上がる見せ方の工夫は必要である。新学会では、実質的な変革ができるチャンスでもある。
- ・日本繊維製品消費科学会側で、投稿に対する意見はないか。
 - 英文誌では、JFST 自体が広がって色々な内容を受け入れている状況に移っているので、大きな影響はない。和文誌では、消費関係を受け入れる前提であればどのような形でも問題はない。
 - 各学会で分野の濃度は異なるが、分野が明確化され、どの分野の方も投稿できるようになれば問題はない。
 - 分野によって投稿できなくなる人が出てはならない。三学会の個性が融合して新しいものが生まれる。専門性を活かせるように検討するのがこの協議会の任務である。完全には難しいが、より良い方向に進める必要がある。
- ・日本機械学会は規模が大きいですが、分野に分かれた複数の論文誌を刊行し、IF も取得している。
- ・今まで開催された論文誌検討 WG 会議の結果を重く受け止める必要もある。
- ・論文誌検討 WG だけでは議論が進まない状況であり、日本繊維機械学会にて再度の検討・提案をいただきたい。
- ・繊維学会の定款では全ての分野を網羅していると規定されているが、JFST は実質的にはどうなっているのか。もし実質的な体制ではない場合は、JTE や繊維消費誌に投稿されていた論文を受け入れる体制が必要である。Editorial Board の設置も必要ではないか。
- ・パート A,B,C に分けて、カテゴライズするのも選択肢ではないか。

【結論】

- ・論文誌検討 WG ならびに協議会で出た意見を日本繊維機械学会で持ち帰り、協議会へ返答を行うこととした。

(5) 年次大会検討 WG

- ・年次大会検討 WG では、3 学会が合併した場合の年次大会および秋季大会（仮称）のあり方について、議論を行っている。
 - ① 現在の状況
 - 前回の年次大会 WG で出された答申を再確認し、現在、問題点を抽出し、それに対する対応策などを議論している状況である。
 - ② 現在検討を進めている案件
 - 年次大会や秋季大会(仮称)の開催規模の具現化
各学会における年次大会の現状を再調査し、現在,想定している会場に収まるかどうか、検討を続けている。収まりそうではあるが、会場費が膨らむ。
 - 研究発表セッションの再編
前回の答申では多すぎるため、どこまでまとめることができるか、検討を続けている。
 - ③ 開催時期と曜日
 - 家政系の学を中心に、土日開催の声が根強い一方で、産を中心に平日開催の声も大きい。会場確保の問題もあり、開催時期や曜日をどうしたほうがよいか、検討を続けている。
 - 私学女子大系は、授業や実習が多く抜けにくい事情があり、土日開催の希望がある。土日に参加した場合でも、大学でも代休取得の必要がある。平日開催のほうがよいと思うが、授業

がない9月前半で開催はどうか。12月でもよいが年末は産官学とも忙しい時期である。

④ 年次大会と秋季大会(仮称)の意味付け(開催目的・必要性)の明確化

- それぞれの大会をどのような内容にするか検討するためにも、開催目的や意義の明確化が必要であり、各大会の内容の検討に合わせ、検討を進めている。

・今後の予定

- ① 上記の検討内容の議論を続け、どうするかの方針を立てる。
- ② 前回の年次大会 WG の答申内容について、細部にわたって内容の確認、必要に応じて議論と修正、項目の追加等を行い、年次大会、秋季大会(仮称)の開催に関する骨子をまとめ上げる。
- ③ 上記の議論の内容を踏まえ、予算案も作成する。
- ④ 広告に関する経費の議論は、財務検討 WG において会費と連動させて検討中のため、各 WG 内では、一旦は行わないこととした。純収入とエクストラ広告で検討を行う。

(6) 催事・研究(委員)会検討 WG

・催事・研究(委員)会検討 WG では、これまでに5月7日、6月11日に会議を開催した。会議では、前回の答申内容の確認、前回から各学会の状況も変わっており、改めて検討ならびに詰めなければならない問題点や検討事項の洗い出しを行っている。

① 催事について

- 前回から状況も変わっており細かい見直しは必要である。また、本部開催の催事の数についても検討を行う。
- 研究会と講演会との関係・重複については、テーマが合致する場合は共催も考えられるが、収益を上げる必要もある。講演内容については交通整理が必要である。

② 研究会について

- 新学会での活動継続などについてのアンケート実施を検討している。

③ 委員会組織について

- 他の委員会との整合を図り検討を行う。

【意見交換】

- ・研究会の統廃合には、時間がかかるのではないか。受け皿が明確でないと困難であり、新学会運営を進めながらでよいと思う。
- ・本来自分達が思っている研究会活動ができているのか。昔と状況が変わり研究会幹事に負担がかかっている。担当や活動している人がハッピーになれる研究会であるべきである。

(7) 国際化 WG

・国際化 WG では、これまでに5月14日に会議を開催した。主に、国際人材ネットワークの構築、国際共同研究促進の体制、国際展示会等での情報収集と広報活動、国際会議の開催の各項目について議論し、合併後の学会国際活動について継続的に検討する。初回は、各学会の国際活動状況について意見交換した。

① 国際人材ネットワーク構築

- 繊維分野における学生・研究者・技術者の情報交換サイトを立ち上げて、留学・博士研究員・サマースクール等頭脳循環情報を提供する。AUTEX(Association of Universities for Textiles)、FAPTA (Federation of Asian Professional Textile Associations) 等での人材ネットワークの

継承を進める。

② 国際展示での情報発信

- 繊維分野国際展示会への出展による情報発信

③ 新たな国際会議の企画

- 連携国との国際会議の主題の選定等の企画（ATC・TRS等）

- ・国際人材ネットワークを構築し、国際共同研究・開発の企画運営によって新学術創成と産業価値創造・社会変革を日本が主導するためには、繊維系三学会の繊維学会・日本繊維機械学会・日本繊維製品消費科学会が一体となり、戦略と具体的な行動プランを議論しながら推し進めることが必至と考える。
- ・次回のWGでは、各学会の国際連携を知る方、国際会議を先導してきた方をお呼びして議論を行う予定である。

（8）財務検討WG

- ・財務検討WGでは、これまでに4月22日、6月26日に会議を開催した。
- ・前回から各学会の状況も変わっており、各学会の事務局に協力をいただき、会員数、管理費などのアップデートを行った。
- ・学会誌、論文誌、催事・研究会、年次大会の収支は、各WGにて検討中である。広告に関する経費の議論は、財務検討WGにおいて会費と連動させて検討中のため、各WGでは一旦行わないこととした。
- ① 事務局の在り方について
 - 事務所の数、所在、年間経費、プロコンを検討し、たたき台を作成した。たたき台をもとに、事務局検討WGに引き継ぐこととした。
- ② 会費について
 - 会員数のアップデートを行い、新たな会費システムによる会費収入予測を①bestシナリオ、②worstシナリオ、③betterシナリオの3バージョンで検討を行っている。
 - 法人会費については、維持会員と賛助会員の区別をなくし、名称を賛助会員（仮称）とし、賛助会員を口数に区分けし、広告とのパッケージについて検討を行っている。
 - シニア会員をどうするのか検討が必要である。
- ・今後、問題点を抽出し、会費収入をbestシナリオにするための施策の検討などを行う。

【意見交換】

- ・企業側としては、法人会費と広告のパッケージ化は、社内申請の数が少なくなり負担が減る。
- ・会社によっては、固定費では難しいが、単発では広告を出しやすい会社もあり、エクストラな広告収入の対応についても検討が必要である。
- ・個人的な繋がりで法人会員に入会いただいている企業があり、統合を機に退会する企業も出てくるのではないかと。また、維持会員の名称がなくなれば、会社のスタンスが変わらないか心配である。
- ・複数口の入会については、各学会での調整が必要である。
- ・法人会費と広告のパッケージ化については、各学会でヒヤリングして確認する必要がある。各学会の理事会などで、企業理事の方に意見を聞いていただきたい。

（9）HP検討WG

- ・繊維学会ならびに日本繊維製品消費科学会では、メンバーの検討を行っている。日本繊維機械学会から、武内俊次先生（信州大学）、若子倫菜先生（金沢大学）のメンバー選出の報告が行われた。若子先

生が日本繊維機械学会情報化委員会委員長に就任して間もない事情があり、二名の選出が了承された。

- ・WGメンバーが揃い次第、リーダーの選出を行う。

3. 繊維系三学会合併に関する協議会の議事録の取り扱いについて

【意見交換】

- ・議事録だけでは部分的な内容しか把握できない可能性がある。
- ・今回は統一文章が公開されるまでに時間を要した。
- ・内容や数字が確定しない情報を公開するのはどうなのか。
- ・透明性を図り、議論の内容やプロセスを知っていただくために、協議会の議事録を公開し、会員より意見を求めるのがよいのではないかと。ただし、補足説明は必要である。
- ・協議会の内容を理事会にて検討を行うので、理事会の議事録を公開すればよいのではないかと。

【結論】

- ・協議会の議事録は、議事録が確定次第、公開してよいこととした。公開方法ならびに公開有無は各学会に一任するが、公開後は各学会に連絡を行い共有する。
- ・議事録の内容の範囲内で、補足のコメントを出すことは構わないが、その内容と公開の事実については、各学会に連絡を行い共有する。
- ・各WGでの資料や議事録は、会長責任の下、事前にWGに了解を得ることを条件に、各学会の理事会内で共有しても構わない。ただし、財務検討WGの議事録・資料については慎重に対応する。

4. オブザーバー参加について

各WGメンバーが、オブザーバーとして協議会への参加を可能とする。ただし、オブザーバー参加者に議決権はなく、原則オンライン参加とする。

5. 全体スケジュールの確認について

全体スケジュールの確認を行った。

日程・時期	会議	内容
2024年7月7日(日)	繊維系三学会合併に関する協議会	状況報告
2024年8月	繊維系三学会合併に関する協議会	中間答申
2024年10月	繊維系三学会合併に関する協議会	答申
2025年1月目標 (ずれ込む場合は3月)	理事会	統合の承認(合併契約書など)
2025年6月	総会	統合の承認
2026年4月		新学会スタート

6. 次回の会議について

次回の協議会は、8月29日(木)13時~16時に開催予定とした。幹事学会は繊維学会。